（仮称）熊本市下水道浸水対策計画2023の策定について　河川課・計画調整課　資料B-6

1　背景と目的

背　景

■気候変動の影響により、雨の降り方が激甚化・頻発化。
■「流域治水」への転換が必要とされており、ハード整備に加え、ソフト対策を踏まえた浸水対策の推進が求められている。

本市の状況

■重点6地区の浸水対策を進めており、3地区の施設を供用開始。
■残り3地区についても設計や工事に着手している。

目　的

気候変動の影響を踏まえたハード整備とソフト対策が一体となった内水対策を進めることで、安全安心なまちづくりを実現。

2　現在進めている浸水対策計画との違い

計画名	熊本市下水道浸水対策計画	（仮称）熊本市下水道浸水対策計画2023
整備水準	市内一律 5年確率　60mm/h	浸水リスクや都市機能集積度に配慮した地域ごとの水準
対策地区の選定基準	浸水実績	浸水リスク、都市機能集積度
対策内容	ハード整備	ハード整備＋ソフト対策
対策地区	重点6地区	重点6地区＋浸水被害が大きい3地区

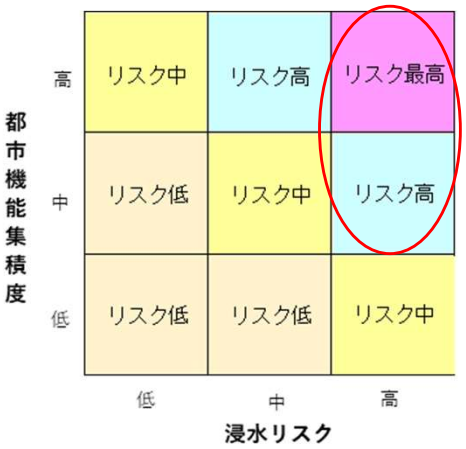
3　本計画で定める主な内容（1）

■「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」を基に降雨強度を見直す。

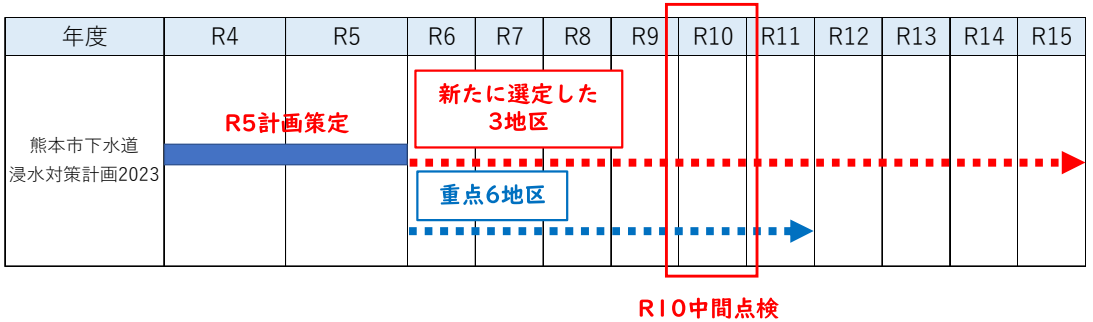
対象降雨	降雨強度
計画降雨L1	5年確率　66mm/h 10年確率　75mm/h
照査降雨L1´	既往最大降雨（H28.6.20実績降雨） 94mm/h
照査降雨L2	想定最大規模降雨 153mm/h

3　本計画で定める主な内容（2）

■市街地165地区を評価し、浸水被害が大きい3地区を新たに選定。



対策地区	計画降雨L1
木部川第6排水区	5年確率 66mm/h
木部川第9排水区	
合流区域（城東地区）	10年確率 75mm/h

4　今後のスケジュール

■　令和5年度に本計画を策定し、令和6年度から10年間で浸水対策を実施。